

1. 明石市の現状について

- (1) 明石市一般廃棄物処理基本計画（現行計画）の概要
- (2) 計画の目標の達成状況
- (3) ごみの組成分析

1. 明石市の現状について

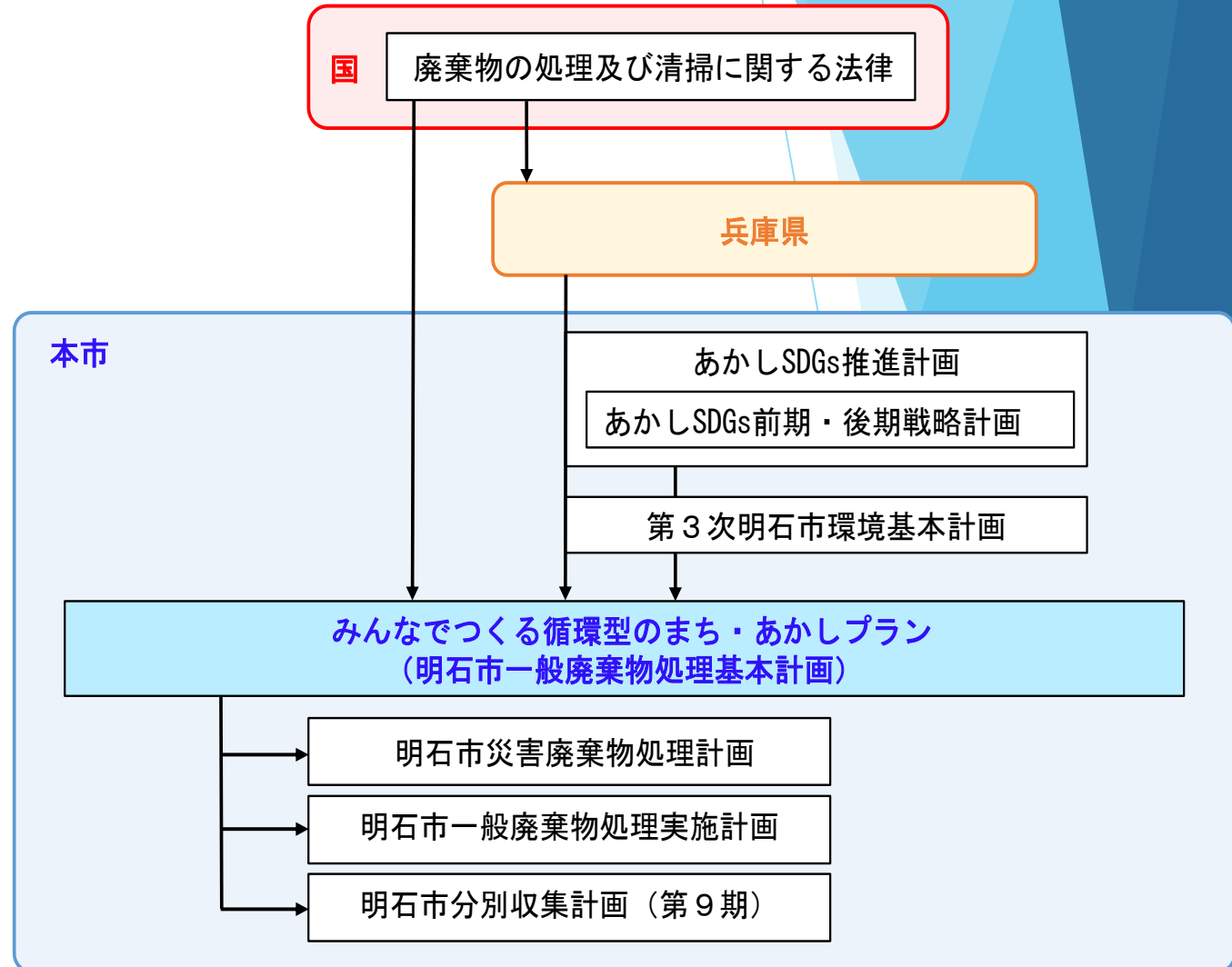
(1) 明石市一般廃棄物処理基本計画（現行計画）の概要

◆計画の位置づけ

- ・「廃棄物処理法」及び「明石市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」の規定を受け策定するものです。
- ・また、本市の「あかしSDGs推進計画（第6次長期総合計画）」及び「第3次明石市環境基本計画」を上位計画として位置づけています。

◆計画目標年度

- 計画目標年度
令和13(2031)年度
- 計画期間
令和4(2022)年度～令和13(2031)年度



1. 明石市の現状について

(1) 明石市一般廃棄物処理基本計画（現行計画）の概要

◆課題

1) 排出抑制

- ・「ちゅう芥類※」及び「紙類」の排出割合が高いため、生ごみや紙類の削減に向けた周知徹底等を、積極的に取り組む必要がある。

※ちゅう芥類：生ごみなど

2) 資源化

- ・燃やせるごみ等への資源化可能物の混入防止や資源ごみや紙・布類の回収が一層進むよう、継続的な促進に取り組む必要がある。
- ・「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」の施行に向けプラスチック資源循環の取り組みを促進する必要がある。

3) 収集運搬

- ・紙類の分別排出の徹底に向けた継続的な促進や排出機会増加の検討等について取り組んでいく必要がある。
- ・できる限り資源化を行うことを目指し、必要に応じて収集品目を見直す必要がある。

1. 明石市の現状について

(1) 明石市一般廃棄物処理基本計画（現行計画）の概要

◆課題

4) 中間処理

- ・焼却施設、破碎選別施設ともに、供用開始から22年目を迎え、経年劣化が進んでおり、新ごみ処理施設整備に向け、最適な施設規模や処理方式等について検討を進めている。

5) 最終処分

- ・一般廃棄物の更なる資源化や焼却灰の資源化など最終処分量の削減に向けた取り組みをより一層推進し、できるだけ現在の最終処分場を長期間利用する必要がある。

6) その他

- ・ごみ処理経費の抑制に継続して取り組むことが重要である。
- ・事業系ごみのごみ処理手数料については、処理原価及び近隣市との料金バランスを図ったごみ処理手数料の検討が必要である。

1. 明石市の現状について

(1) 明石市一般廃棄物処理基本計画（現行計画）の概要

◆基本理念・基本方針と基本施策

基本理念

環境への負荷が小さく持続可能な
循環型のまち・あかし

基本方針 1 ごみの発生抑制を最優先、次に再使用・再生利用

基本施策 1 家庭から出るごみを減らす

基本施策 2 事業者などから出るごみを減らす

基本施策 3 ごみの再使用・再生利用への誘導

基本方針 2 パートナーシップによる取り組みの強化

基本施策 4 情報の共有化

基本施策 5 参画と協働のネットワークづくり

基本方針 3 ごみの安全・安心な適正処理

基本施策 6 環境負荷を低減した適正処理の推進

基本施策 7 経営感覚にもとづく施策の推進

基本施策 8 今ある施設を最大限活用

1. 明石市の現状について

(1) 明石市一般廃棄物処理基本計画（現行計画）の概要

◆目標値の設定

目標項目	基準値 (平成30(2018)年度)	目標値 (令和13(2031)年度)
市のごみ処理量 本市クリーンセンターで処理するごみ量（市施設で処理しない紙類・布類・集団回収量を除く）	95,546t/年	81,000t/年 (削減量 約14,600t/年)
燃やせるごみ及び燃やせないごみの排出量 家庭系ごみ及び事業系ごみの燃やせるごみ、燃やせないごみの合計量	91,404t/年	77,000t/年 (削減量 約14,500t/年)
家庭系燃やせるごみの1人1日あたり排出量 家庭から収集する燃やせるごみの1人1日あたり排出量	488g/人・日	411g/人・日 (削減量 77g/人・日)

出典：明石市一般廃棄物処理基本計画（令和4年4月）

1. 明石市の現状について

(1) 明石市一般廃棄物処理基本計画（現行計画）の概要

◆目標値の設定

目標項目	基準値 (平成30(2018)年度)	目標値 (令和13(2031)年度)
事業系市ごみ処理量 市施設で処理している事業系一般廃棄物※ ¹ の量	33,768t/年	27,500t/年 (削減量 約6,300t/年)
最終処分量 本市最終処分場や大阪湾フェニックスセンター※ ² において埋立処理している量	17,356t/年	13,500t/年 (削減量 約3,900t/年)
リサイクル率 本市のごみ量のうち資源化されている量の割合	10.7%	10.4% (減少率 0.3ポイント)

※1 事業系一般廃棄物とは、法律で定められた計20種類の廃棄物を除く、会社やお店など事業活動に伴って排出される廃棄物を指します。

※2 大阪湾フェニックスセンターとは、広域的に廃棄物を適正に最終処分するため、近畿の自治体等が出資して設立された施設です。

出典：明石市一般廃棄物処理基本計画（令和4年4月）

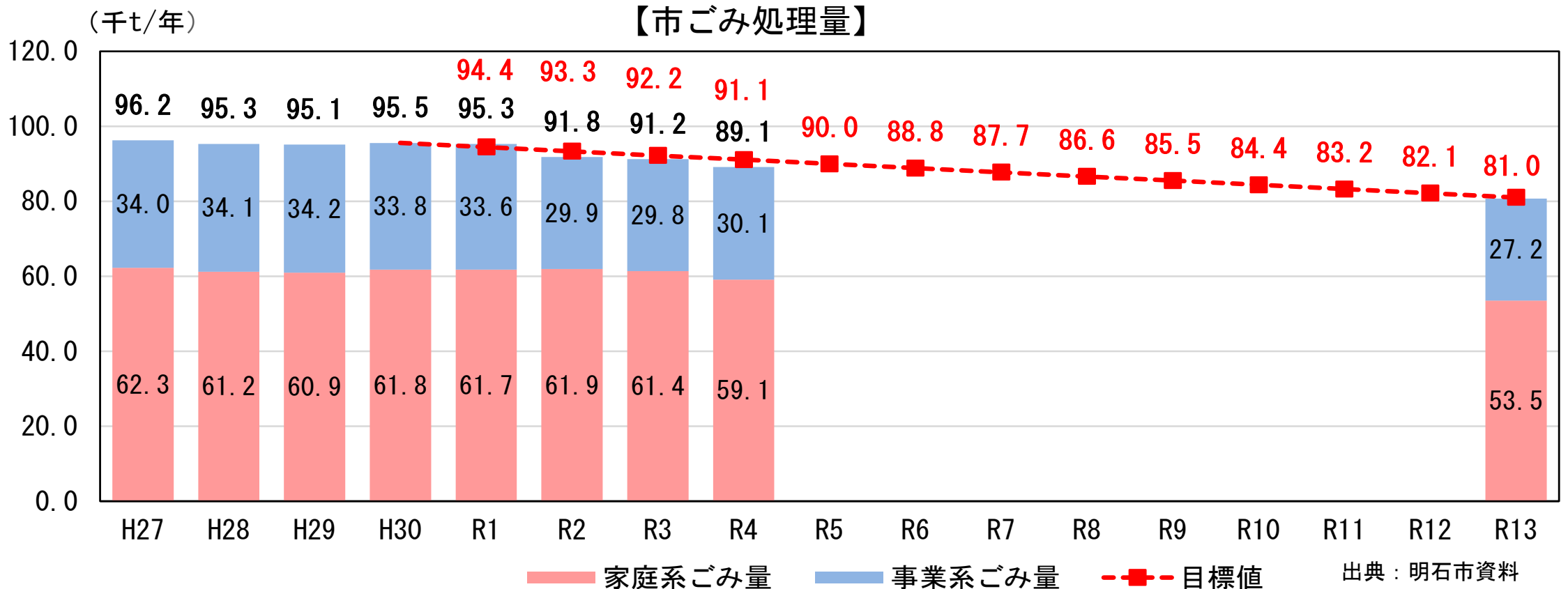
◆生活排水処理基本計画

生活排水処理基本計画については、今回の改定で変更がないため省略とする。

1. 明石市の現状について

(2) 計画の目標の達成状況

- ・市ごみ処理量は、平成30年度以降減少が続いており、令和2年度からは各年度の目標（目安）を達成しています。
- ・家庭系ごみは、令和2年度に微増し、その後減少しています。
- ・事業系ごみは、コロナ禍により令和2年度、3年度に大きく減少したものの、令和4年度に増加に転じており、今後の動向を注視する必要があります。



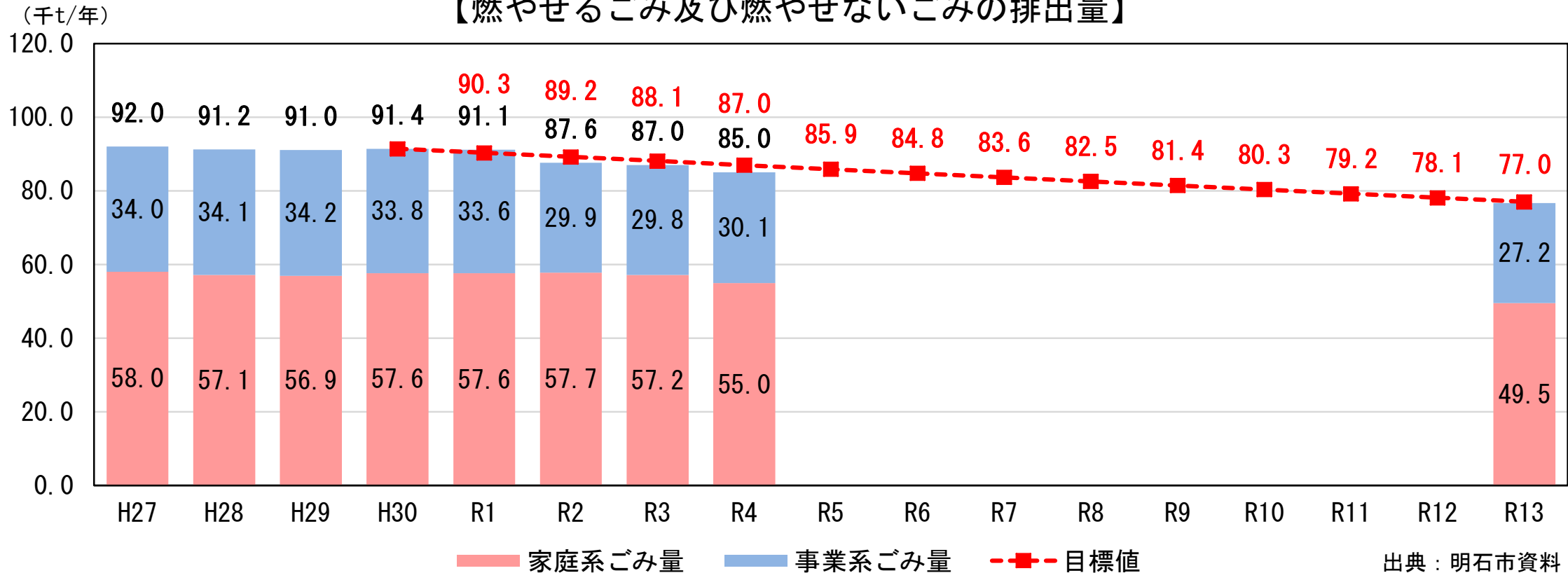
※図の令和元年から12年度の目標値は、平成30年度から令和13年度まで均等に推移させた数値

1. 明石市の現状について

(2) 計画の目標の達成状況

- ・燃やせるごみ及び燃やせないごみの排出量は、平成30年度以降減少が続いており、令和2年度からは各年度の目標（目安）を達成しています。
- ・家庭系ごみは、令和4年度に減少しています。
- ・事業系ごみは、コロナ禍により令和2年度、3年度に大きく減少したものの、令和4年度に増加に転じており、今後の動向を注視する必要があります。

【燃やせるごみ及び燃やせないごみの排出量】



出典：明石市資料

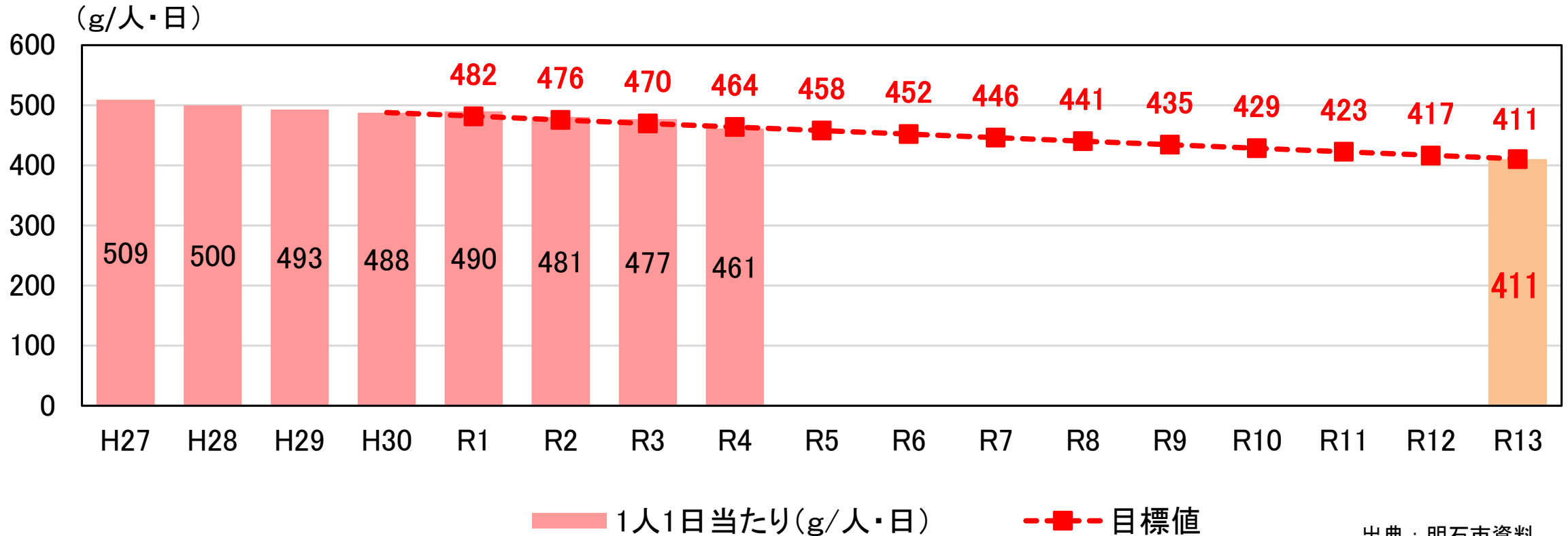
※図の令和元年から12年度の目標値は、平成30年度から令和13年度まで均等に推移させた数値

1. 明石市の現状について

(2) 計画の目標の達成状況

- ・ 家庭系燃やせるごみ1人1日当たり排出量は、平成30年度以降減少傾向が続いており、令和4年度には各年度の目標（目安）を達成しています。
- ・ 令和13年度の目標の達成に向けては、さらに50 g を減量する必要があり、より一層の取り組みが求められます。

【家庭系燃やせるごみ1人1日あたり排出量】



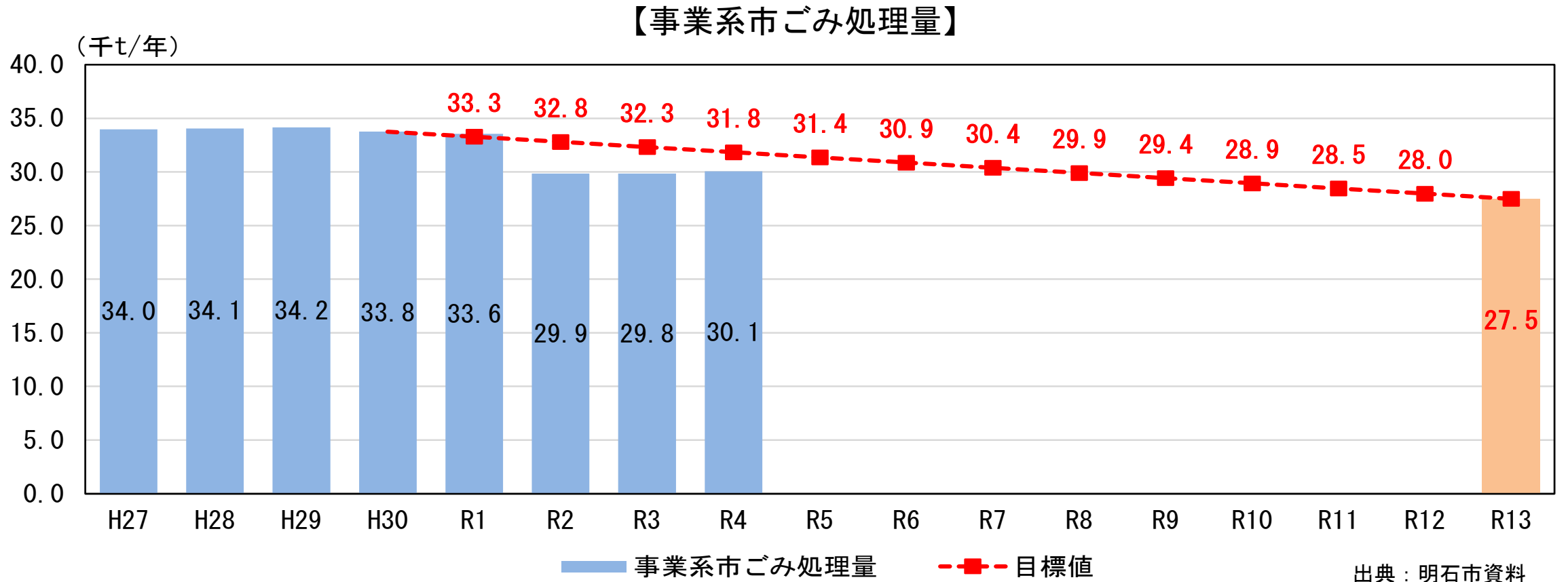
出典：明石市資料

※図の令和元年から12年度の目標値は、平成30年度から令和13年度まで均等に推移させた数値

1. 明石市の現状について

(2) 計画の目標の達成状況

- ・事業系ごみは、コロナ禍により令和2年度、3年度に大きく減少したものの、令和4年度に増加に転じており、今後の動向を注視する必要があります。

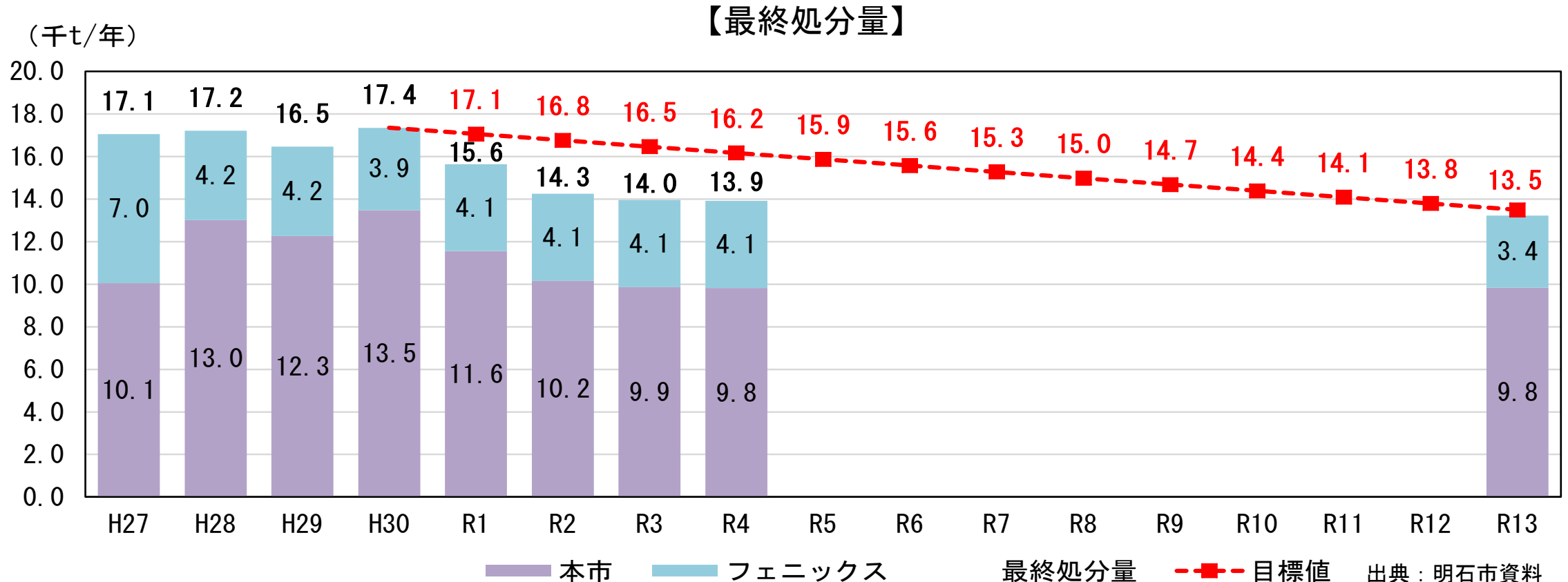


※図の令和元年から12年度の目標値は、平成30年度から令和13年度まで均等に推移させた数値

1. 明石市の現状について

(2) 計画の目標の達成状況

- ・最終処分量は、令和元年度に大きく減少し、その後も減少傾向が続いており、令和元年度から各年度の目標（目安）を達成しています。
- ・最終処分場やフェニックスといった最終処分場は、埋め立てられる量が決まっており、より長く利用するためにも、出来る限りの減量が求められます。



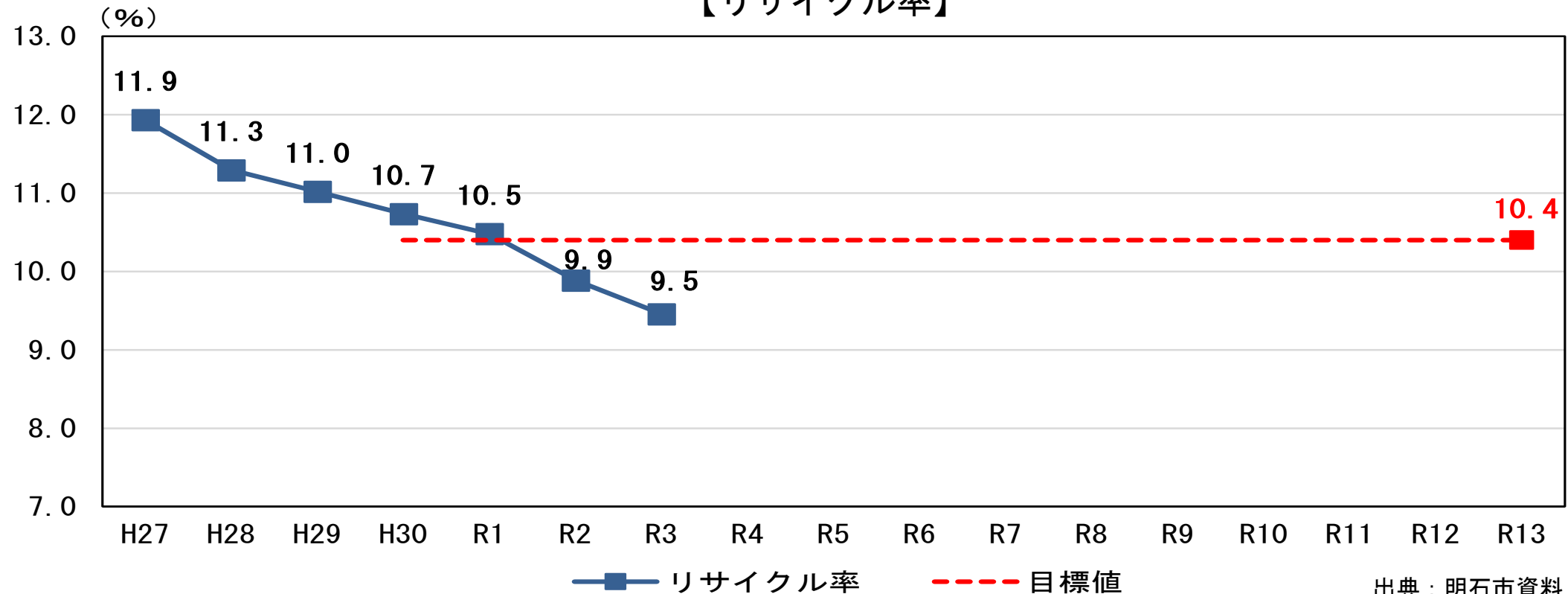
※図の令和元年から12年度の目標値は、平成30年度から令和13年度まで均等に推移させた数値

1. 明石市の現状について

(2) 計画の目標の達成状況

- ・リサイクル率は、平成30年度以降下落が続いており、令和13年度の目標を下回っています。
- ・その要因としては、ペットボトルやびん類などの軽量化が進んだこと、集団回収量の減少といったことが考えられます。
- ・リデュース・リユースを優先しつつ、資源化可能なものはしっかり分別し、リサイクル率を維持・改善していくことが求められます。

【リサイクル率】



出典：明石市資料

■発生抑制に関する取り組みの進捗状況

組成分析調査

【測定分析方法概要】

●家庭系可燃ごみ、不燃ごみ

- ・市内10 か所のごみステーションから30 袋を抽出
- ・約150 kgを分析

●事業系可燃ごみ

- ・明石クリーンセンター焼却施設プラットホームにてサンプリング
- ・約200 kgを分析

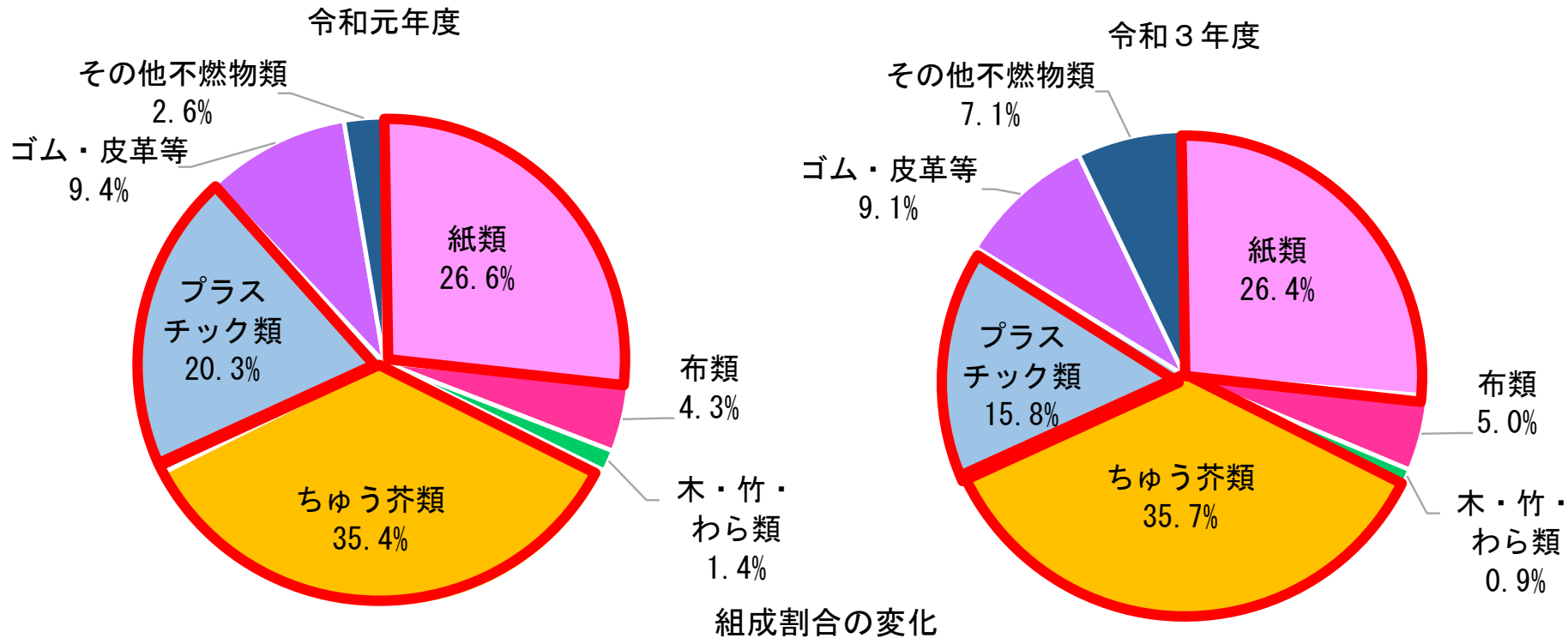
1. 明石市の現状について

(3) ごみの組成分析

■発生抑制に関する取り組みの進捗状況

＜家庭系燃やせるごみ＞組成分析調査結果

- ・令和3年度において、「ちゅう芥類」（35.7%）が最も多く、次に「紙類」（26.4%）が多い。
- ・プラスチック類は、令和3年度においてやや減少したものの、15.8%と3番目に多い。
- ・令和元年度と令和3年度の組成の割合に大きな変化はない。



出典：明石クリーンセンター焼却施設等包括管理業務委託排出物等分析測定業務年間報告書（令和元年度、令和3年度）

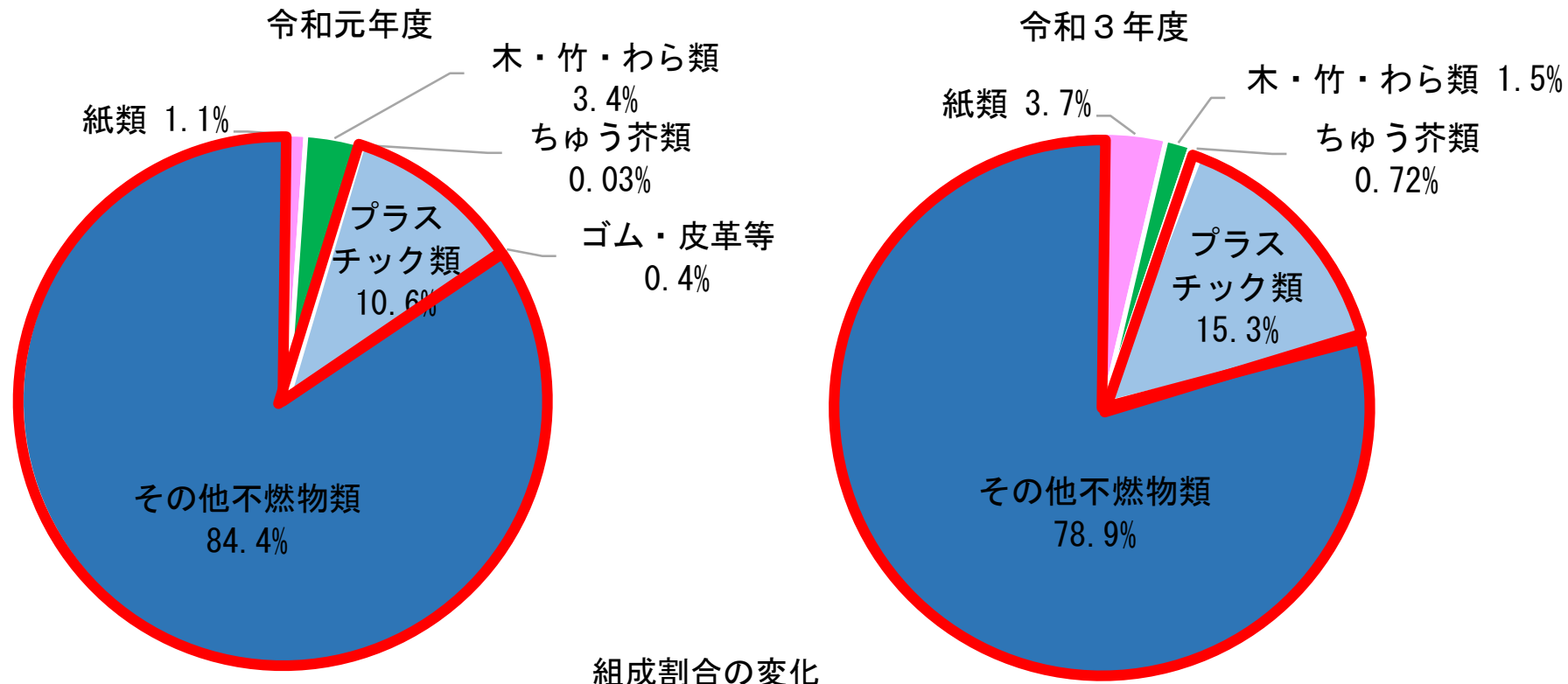
1. 明石市の現状について

(3) ごみの組成分析

■発生抑制に関する取り組みの進捗状況

＜家庭系燃やせないごみ＞組成分析調査結果

- ・令和3年度において、「その他不燃物類（金属製品、陶器、ガラス類等）」が最も多く、78.9%である。
- ・「プラスチック類」の割合は2番目に多く、10～15%と一定割合を占めている。
- ・令和元年度と令和3年度を比較すると、「プラスチック類」が5ポイント増加している。



組成割合の変化

出典：明石クリーンセンター焼却施設等包括管理業務委託排出物等分析測定業務年間報告書（令和元年度、令和3年度）

1. 明石市の現状について

(3) ごみの組成分析

<家庭系燃やせるごみ>

単位：g/人・日

項目\年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
紙類	紙パック	2.3	4.5	3.8	3.2
	段ボール	9.2	7.0	7.3	7.4
	新聞、折込広告	16.3	29.0	13.3	13.7
	雑誌、書籍	0.3	11.6	12.2	8.0
	雑がみ（リサイクル可能）	41.1	16.0	13.9	32.6
	雑がみ（リサイクル不可能）	67.2	62.1	72.3	61.0
	小計	(136.5)	(130.1)	(122.8)	(125.9)
布類	古着、布類	8.4	12.5	5.1	7.5
	汚れた衣類など	28.1	8.7	13.2	16.3
	小計	(36.5)	(21.2)	(18.2)	(23.8)
木・竹・わら類		11.5	6.9	10.6	4.1
ちゅう芥類		154.4	173.2	202.5	170.6
合成樹脂 ・ゴム ・皮革	ペットボトル	1.4	4.4	4.3	2.4
	プラスチック製容器包装（レジ袋）	8.1	7.4	9.0	6.5
	プラスチック製容器包装（白色トレイ）	0.7	8.8	1.7	3.9
	プラスチック製容器包装（その他）	64.3	74.2	57.6	49.3
	プラスチック製品	14.0	5.0	14.5	13.3
	プラスチック類小計	(87.1)	(95.3)	(83.0)	(73.0)
	紙おむつ	36.3	38.5	26.9	34.6
小笠家電製品			0.2		
金属、ガラス、陶磁器		5.9	6.7	4.9	22.8
小計		(22.9)	(12.9)	(10.5)	(34.0)
合計		487.8	490.1	481.2	477.4
資源化可能物		80.9	85.8	61.6	76.3

ちゅう芥類は、令和3年度に減少したものの、近年の推移を見ると、増加傾向である。

プラスチック製容器包装とプラスチック製品の合計量は減少傾向にあるものの、割合が多くなっており、分別すれば資源化できる可能性がある。

資源化可能物の混入割合はやや減少しているが、まだ混入している量も多い。

1. 明石市の現状について

(3) ごみの組成分析

<家庭系燃やせないごみ>

単位：g/人・日

項目\年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
紙類	新聞、雑誌、雑がみ、段ボール	0.10	0.12	0.24	0.13
	汚れた紙類（リサイクル不可能）	0.58	0.16	4.34	0.81
	小計	(0.68)	(0.28)	(4.58)	(0.94)
布類	汚れのない衣類など				
木・竹・わら類	枝木、竹、わら、草、花、割り箸など	0.70	0.88	1.51	0.38
ちゅう芥類	調理くず、食べ残しなど		0.01		0.18
合成樹脂 ・ゴム・皮革	ペットボトル		0.23		0.11
	プラスチック製容器包装	0.39	0.14	0.05	0.15
	プラスチック製品	4.57	2.36	4.53	3.64
	プラスチック類小計	(4.96)	(2.50)	(4.58)	(3.79)
	その他（ゴム、皮革を含む）	0.58	0.10		
	小計	(5.54)	(2.83)	(4.58)	(3.90)
	傘				
	その他金属（鍋、穴あきスプレー缶など）	11.51	9.09	12.12	15.52
	穴なしスプレー缶など	0.05	0.23	0.06	0.08
	蛍光灯		0.08	0.21	
	乾電池	0.31	0.58	0.15	0.52
	その他可燃（5mm目ふるい下、分類不能など）	0.18			
	資源化不可能な其他不燃物類小計	(14.55)	(16.49)	(15.95)	(17.96)
	小計	(20.48)	(21.71)	(17.34)	(20.16)
合計		27.40	25.71	28.01	25.56
資源化可能物		6.03	5.57	1.63	2.45

資源化不可能な「其他不燃物類」では、「其他金属（鍋、穴あきスプレー缶など）」が多くなっている。

資源化可能物の混入は減少傾向にある。

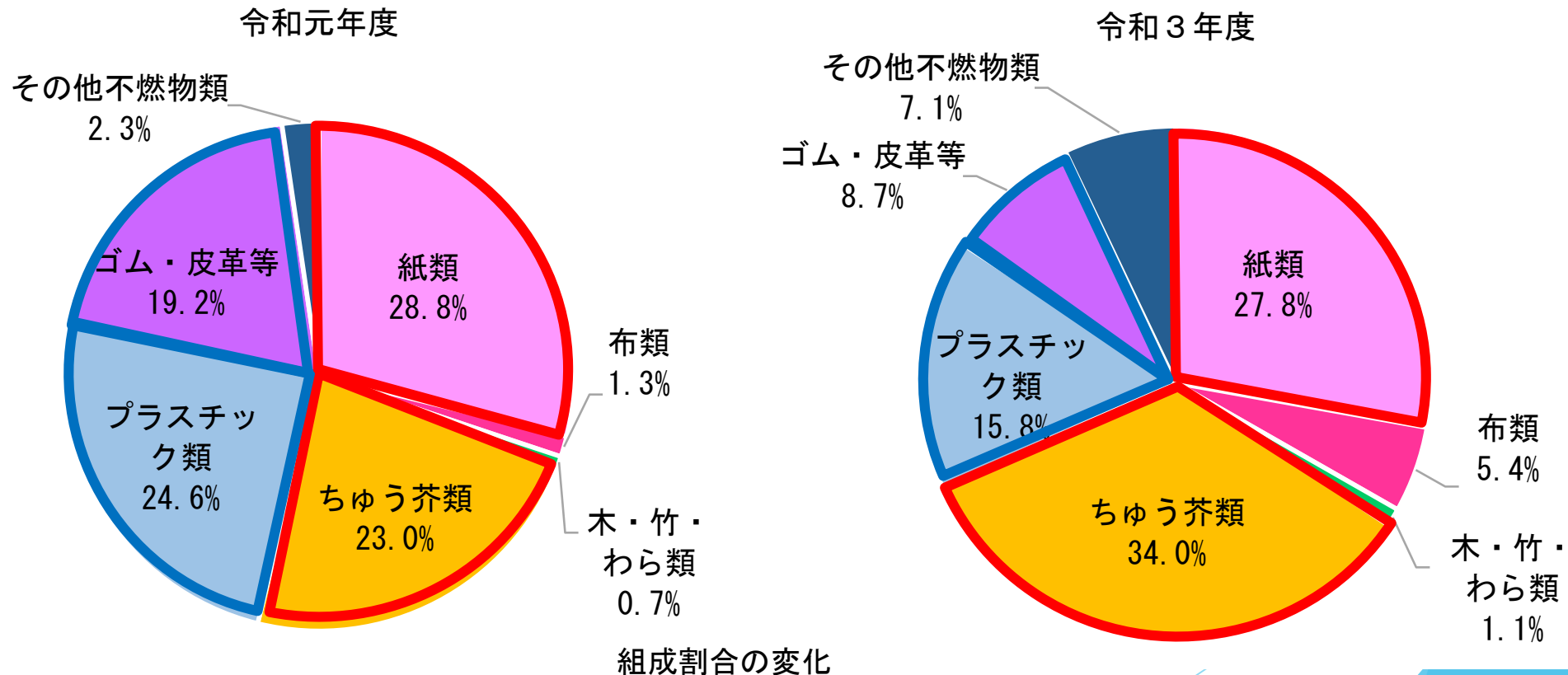
1. 明石市の現状について

(3) ごみの組成分析

■発生抑制に関する取り組みの進捗状況

＜事業系燃やせるごみ＞組成分析調査結果

- ・令和3年度において、「ちゅう芥類」(34.0%)が最も多く、次に「紙類」(27.8%)が多い。
- ・令和元年度と令和3年度の組成を見ると、「ゴム・皮革等」が約10ポイント、「プラスチック類」が約9ポイントそれぞれ減少し、「ちゅう芥類」が9ポイント増加している。



出典：明石クリーンセンター焼却施設等包括管理業務委託排出物等分析測定業務年間報告書（令和元年度、令和3年度）

1. 明石市の現状について

(3) ごみの組成分析

＜事業系燃やせるごみ＞

単位：g/人・日

項目\年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
紙類	紙パック	0.5	1.4	6.5	1.9
	段ボール	3.8	4.4	8.9	6.5
	新聞、折込広告	5.3	17.6	2.5	7.7
	雑誌、書籍	0.5	2.8		4.6
	雑がみ（リサイクル可能）	23.7	18.3	9.6	20.5
	雑がみ（リサイクル不可能）	42.8	39.9	53.6	30.1
不燃物・資源物		76.6	64.4	61.1	71.2
不燃物・資源物		16.1	7.1	14.4	7.4
ちゅう芥類		59.4	67.5	66.8	87.3
合成樹脂 ・ゴム ・皮革	ペットボトル	1.7	4.7	8.6	2.1
	プラスチック製容器包装（レジ袋）	1.4	4.0	4.2	3.8
	プラスチック製容器包装（白色トレイ）	0.1	2.5	2.0	3.2
	プラスチック製容器包装（その他）	34.0	46.2	42.8	23.2
	プラスチック製品	2.8	14.6	4.5	8.3
	紙おむつ	74.4	53.3	10.8	16.7
	その他（ゴム、皮革を含む）	11.0	3.0	1.6	5.7
	小計	125.4	128.4	74.4	62.9
その他 不燃物類	飲料用びん		1.1	1.1	0.4
	スチール缶・アルミ缶	0.5	0.7	2.5	0.2
	乾燥剤、ペットのフン等	0.6	1.1	0.7	16.1
	蛍光灯・水銀・乾電池			0.1	0.2
	小型家電製品	0.8	0.2	0.1	1.2
	金属、ガラス、陶磁器		3.8		0.2
	小計	1.9	6.8	4.4	18.3
合計		296.3	293.1	255.4	256.6
資源化可能物		39.4	51.1	39.6	46.2

資源化可能な紙類がまだ多く混入している。

最も多くの割合を占める「ちゅう芥類」が増加傾向となっている。

資源化可能物がまだ多く混入している。